



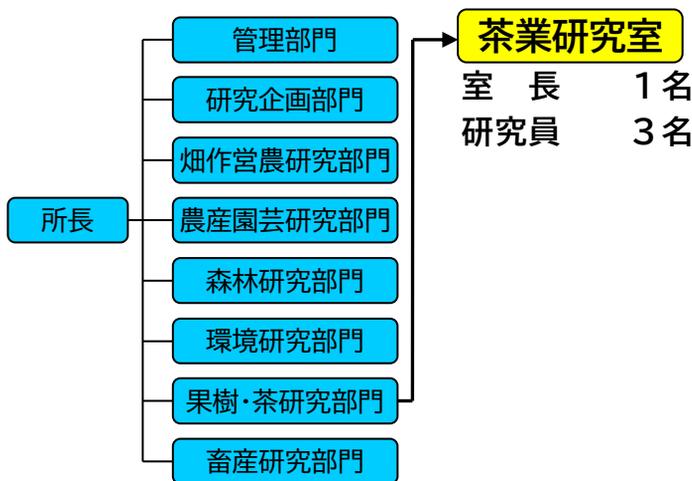
長崎県農林技術開発センター  
果樹・茶研究部門（茶）

NAGASAKI AGRICULTURAL and FORESTRY TECHNICAL  
DEVELOPMENT CENTRE

FRUIT TREE AND TEA RESEARCH SECTION

- 昭和 4年(1929) 長崎県立農事試験場茶業部設置(東彼杵郡東彼杵村)
- 昭和 5年(1930) 長崎県立農事試験場附属茶業指導所と改称
- 昭和10年(1935) 輸出茶再生事業実施
- 昭和15年(1940) 長崎県彼杵茶業指導所と改称
- 昭和24年(1949) 長崎県経済部茶業所と改称
- 昭和31年(1956) 長崎県茶業指導所と改称
- 昭和36年(1961) 長崎県総合農林センター彼杵茶業センターと改称
- 昭和46年(1971) 長崎県総合農林試験場東彼杵茶業支場と改称
- 昭和50年(1975) 現在地へ移転整備(東彼杵町三根郷より中尾郷へ移転)
- 昭和56年(1981) 長崎県総合農林試験場 彼杵茶業支場と改称
- 昭和61年(1986) 長崎県総合農林試験場 東彼杵茶業支場と改称
- 平成21年(2009) 長崎県農林技術開発センター 茶業研究室と改称

組織



〒859-3801  
長崎県東彼杵郡東彼杵町中尾郷1414  
TEL:0957-46-0033 FAX:0957-46-0875

位置と交通

J R大村線彼杵駅から、佐賀県嬉野町へ向かう国道34号線より、東彼杵町菅無田郷を経て、太ノ原地区町道を進み約8kmの海拔400mの位置にある。

公共交通機関は、東彼杵町デマンド交通「どっこ茶バス」で中山入口バス停下車、徒歩5分



敷地・施設

1. 敷地

総面積	79,970㎡
うち試験圃場	49,500㎡
建物用地	12,364㎡
道路その他	18,106㎡

2. 施設

本館(事務室・実験室)	305㎡
製茶試験室	662㎡
農機具及び肥料倉庫	162㎡
農業機械格納庫	305㎡
ガラス室	103㎡
堆肥舎	128㎡



## 試験研究の概要

『第3期ながさき農林業・農山村活性化計画』および『長崎県茶業振興計画』に基づき、地域の特性を生かした産地基盤の強化と生産農家の経営安定、さらに消費者ニーズに対応した県産茶のブランド化を図るため、技術開発に取り組んでいます。

### 茶樹優良品種の選定

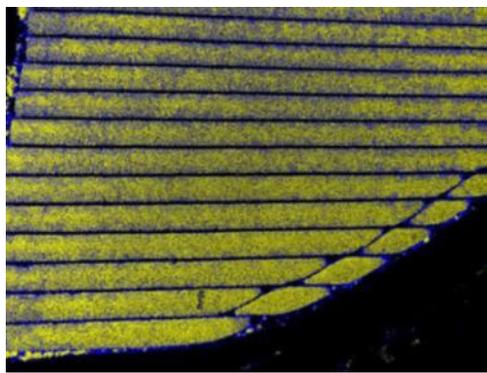
高品質茶の生産安定と経営規模拡大を図るため、本県に適した品種選定を行う。



優良系統の地域適応性検定試験圃場

### 生育予測技術の確立

50mメッシュ精密気象データと空撮画像による一番茶の萌芽期、被覆時期の予測を確立する。



通常のカメラによる萌芽率見える化のための画像処理

### 原料用茶葉栽培技術開発

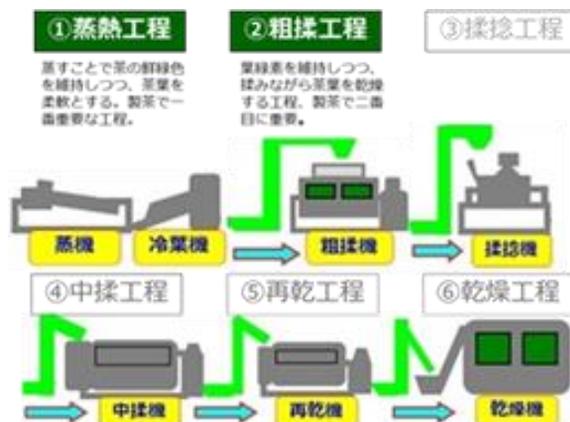
ドリンク原料茶・抹茶等食品加工用原料茶葉の安定供給のための栽培技術を開発する。



てん茶工場（令和元年稼働開始）

### 高品質製茶技術の確立と実証

優良早生品種「さえみどり、さえあかり、さきみどり、つゆひかり」の原葉形質と市場・実需者ニーズに対応した製茶技術を確立する。



蒸製玉緑茶製造工程

## 長崎県の茶

長崎と茶の出会い、1191年、日本で最初の茶書『喫茶養生記』の著者として有名な栄西禅師が中国より持ち帰った茶の種子を平戸市の千光寺に播き、製茶や喫茶を伝えたことが始まりで、本県は日本茶業の発祥の地である。

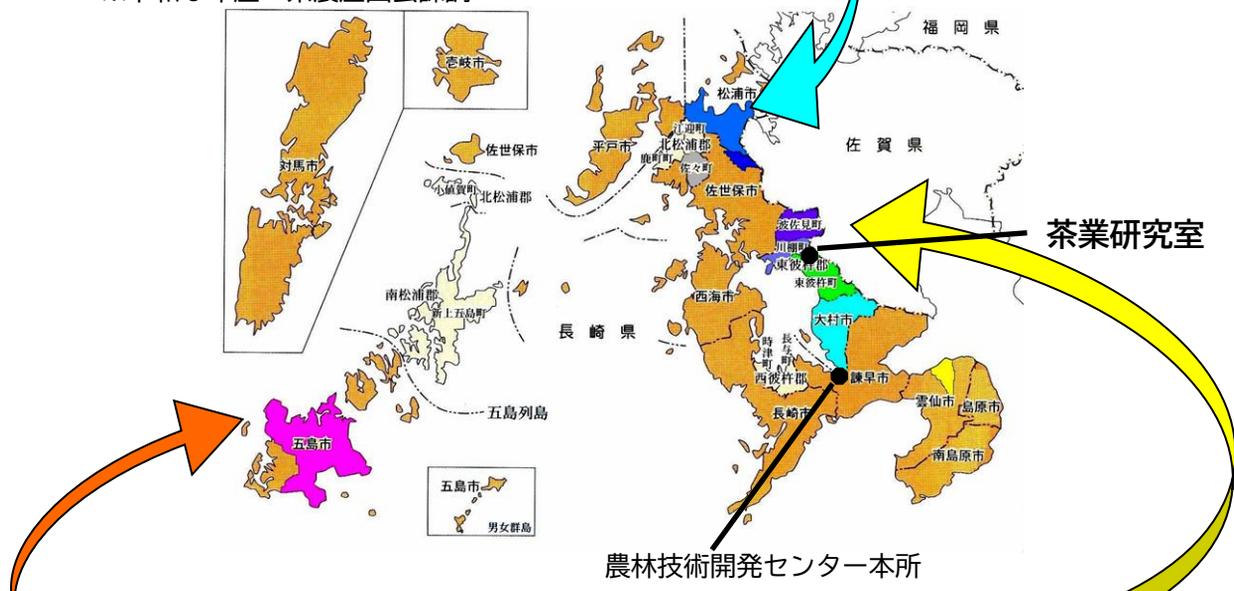
長崎県の茶は、令和3年現在、栽培面積全国11位、荒茶生産量全国11位の規模である。県内の主な産地は、東彼杵町、佐世保市、五島市、西海市で、他に波佐見町、松浦市、佐々町等がある。特に五島市においては、平成10年より西海市では平成19年より茶の栽培を開始し、産地化に取り組んでいる。

市町名	栽培面積 (ha)
東彼杵町	320.8
佐世保市	28.8
五島市	20.7
西海市	19.6
波佐見町	17.0
松浦市	15.1
佐々町	12.5
雲仙市	8.8
その他	5.0
県合計	448.3

※令和6年産 県農産園芸課調べ



県北地域茶産地



五島地域茶産地



県央地域茶産地